



2022年11月7日

各 位

会社名 味の素株式会社
 代表者名 代表執行役社長 藤江 太郎
 (コード番号 2802 東証プライム)
 問合せ先 執行理事 グローバル財務部長
 水谷 英一
 (TEL. 03-5250-8111)

通期連結業績予想の修正及び剰余金の配当（中間配当）並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年5月11日に公表した2023年3月期通期連結業績予想及び配当予想について下記の通り修正するとともに、2022年9月30日を基準日とする剰余金の配当を決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

単位：百万円

	売上高	事業利益	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	基本的1株当た り当期利益(円)
前回発表予想（A）	1,310,000	124,000	77,000	143.54
今回発表予想（B）	1,367,000	133,000	83,000	155.30
増減額（B-A）	57,000	9,000	6,000	
増減率（%）	4.4%	7.3%	7.8%	
（ご参考） 前期実績（2022年3月期）	1,149,370	120,915	75,725	139.42

(1) 修正の理由

2022年5月11日公表の業績予想に対して、売上高、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益を修正いたしました。

売上高については、為替の大きな変動や経済状況等の影響について足元の事業環境下で見直した結果、前回予想から570億円引き上げ1兆3,670億円といたしました。修正予想に対する売上高の進捗率は48.3%です。

事業利益については、原燃料価格等の高騰の影響があるものの、為替影響に加えて、調味料・食品セグメントにおける単価上昇等、ヘルスケア等セグメントにおいて、電子材料及びバイオファーマセービス&イングリディエントでの増収効果等により、同セグメントの事業利益は前回予想を上回る見通しであることから、前回予想から90億円引き上げ1,330億円といたしました。修正予想に対する事業利益の進捗率は55.9%です。

親会社の所有者に帰属する当期利益についても、主に事業利益が前回予想を上回ることから、前回予想から60億円引き上げ830億円といたしました。修正予想に対する親会社の所有者に帰属する四半期利益の進捗率は56.7%です。

業績予想の前提となる為替レートについては、1ドル=135円で設定しております。

- (注) 1. 当社グループは、IFRS の適用にあたり、投資家、取締役会及び経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会及び経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しております。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」及び「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」及び「その他の営業費用」を含まない段階利益です。
- (注) 2. 上記業績予想は、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しています。実際の業績は、今後様々な要因やリスクによって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

2. 剰余金の配当（中間配当）

(1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決議内容	直近の配当予想 (2022年5月11日公表)	前期実績 (2022年3月期中間期)
基準日	2022年9月30日	同左	2021年9月30日
1株当たり配当金	31円	29円	24円
配当金総額	16,643百万円	—	13,066百万円
効力発生日	2022年12月2日	—	2021年12月3日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 修正の理由

今般、通期の業績が前回予想を上回る見通しとなったことから、中間配当を前回予想から2円増額し1株当たり31円といたしました。

3. 2023年3月期配当予想の修正

(1) 年間配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想 (2022年5月11日)	29円	29円	58円
今回修正予想		31円	62円
当期実績	31円		
前期実績 (2022年3月期)	24円	28円	52円

(2) 修正の理由

中間配当を前回予想から2円増額し1株当たり31円としたことに加えて、更に期末配当予想についても2円増額し1株当たり31円に修正いたします。この結果、年間の1株当たり配当金は、62円となる予定です。

以上